

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅴ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4162 PSMP4462
2. 授業担当教員	戎 弘志		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅴでは、さまざまな事例を用いて、そこにみられる「人間と環境」または「環境の中の人間」への介入の視点から、エコ・システム論に準拠し、事例における(1)問題認知(問題そのものの理解)、(2)関連するデータの分析(問題背景の理解)、(3)仮説の設定(「～ならば～である」とするワーカーの仮説)、(4)実践理論及び実践モデルの検討(問題に最適だと考えられる理論及びモデルの検討)、(5)目標、目標計画及び介入計画(具体的目標や目標達成に向けた計画の策定)(6)介入(相談援助の実践)(7)評価(実践評価)(8)終結(援助終了)の援助過程から学習します。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：授業内容にある事例の相談援助を、エコ・システム論に準拠して理解することができるようになる。</p> <p>目標2：授業内容にある事例の中に含まれる、環境の調整(マネジメント)、多職種連携による介入(チームアプローチ)、利用者のもつ力(ストレングス)の視点、社会生活モデル等を、具体的に説明できるようになる。</p> <p>目標3：自らの相談援助の場面を想定して、目標1、目標2を統合した援助方法がイメージできるようになる。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1：前半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内</p> <p>課題 2：後半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内</p> <p>まとめレポート：事例に対する相談援助実践に関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助演習』第 2 版、中央法規、2015 年。</p> <p>【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005 年。</p> <p>障害者相談支援従事者初任研修テキスト編集委員会編 『改訂 障害者相談支援従事者初任研修テキスト』中央法規。</p> <p>恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所編『子ども虐待対応の手引き』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>・ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した時点で、相談援助演習の最終段階として総合的・包括的な支援の在り方を理解できる。そのために設定された具体的目標(3つの目標)を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 個人レポート(課題 1～2) 30%</p> <p>2. まとめレポート 30%</p> <p>3. 演習への参加度・取り組み 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。そのため受講生は次の条件を守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って積極的な態度で受講する。 自ら進んで教員に質問する。理解できないことはそのまま放っておかない。 欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告する。 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしない。 <p>教員は以下の方針で授業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 双方向対話型の学習によりディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう環境を作る。 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方等） 障害者の就労支援に関する相談援助 ① ※ 障害者の就労支援に関する相談援助事例をもとに、障害者の就労支援では、職場（環境や集団）や地域環境に対する調整と本人に向けられた支援とが並行してなされる必要のあることを学習する。 ※ 教科書の第5章、事例問題25の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.268～271 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第2回	障害者の就労支援に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第1回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第3回	病院からの退院に関する相談援助 ① ※ 病院からの退院に関する相談援助事例をもとに、退院計画では患者の社会環境（介護サービス、医療・保健サービス、経済状態等）の調整と、本人の身体面・心理面等への支援とが並行して、専門職がチームを組んで支援する必要があることを学習する。 ※ 教科書の第5章、事例問題27の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.276～279 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第4回	病院からの退院に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第3回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第5回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ① ※ DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談援助事例をもとに、DV とはどのようなものか、その特質を理解し、「DV 防止法」をもとに DV が被害者に及ぼす影響と、被害者が直面する生活問題について学習する。 ※ 教科書の第5章、事例問題28の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.280～283 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第6回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第5回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第7回	(被)虐待児童への相談援助 ① ※ 発達障害児童への虐待に関する相談援助事例をもとに、発達障害とネグレクト（育児放棄）が結びついた児童に対し、児童養護施設等の受け皿（環境）と児童のもつ力（ストレングス）を調整しながら支援することを学習する。 ※ 教科書の第5章、事例問題30の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.288～291 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第8回	(被)虐待児童への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第7回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第9回	低所得者への相談援助 ① ※ 低所得者への相談援助事例をもとに、低所得・貧困問題を抱えた利用者に対して、利用者自身のもつ能力を引き出すとともに、各種の社会制度・施策、社会サービスなどの社会資源（環境）を活用しながら自立に向けた支援展開を学習する。 ※ 教科書の第6章、事例問題34の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.312～315 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第10回	低所得者への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第9回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第11回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ① ※ 要介護高齢者とその家族への相談援助事例をもとに、要介護高齢者の介護問題だけでなく、高齢者を抱える家族支援のあり方について学習する。 ※ 教科書の第6章、事例問題37の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.326～329 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第12回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第11回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第13回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ① ※ 身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助事例をもとに、障害者の自立とは何を意味するのかを把握した上で、自立生活に欠かせない社会資源調整や人々の意識変革に向けての働きかけの内容を、国際生活機能分類の「社会生活モデル」に基づいて学習する。 ※ 教科書の第6章、事例問題38の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.330～335 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第14回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第13回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。

第 1 5 回	まとめ ※ 第 1 回～第 14 回授業を振り返り、援助の重要ポイントを 押さえる。	事前学習	授業で配布されたレジюме、事前・事後 学習ノートの内容を整理し、ソーシャル ワーク演習Ⅴでの学びをまとめる。
		事後学習	援助の重要ポイントについてまとめる。